

2018年7月17日

沖縄県企業局 建設課
関係各位

自然写真家ユニット・うみまーる
高松明日香
井上慎也

座間味浄水場の建設地についての要望書

日頃、県民の生活向上のためにご尽力いただき、ありがとうございます。

6月18日の住民説明会では、住民の意見に耳を傾けていただき、ありがとうございました。「みなさんの思いを知ることができて良かった。強行はしない。住民の意見を聞きながら進める」と言っただけで、大変うれしかったです。ここに、住民の要望を届けさせていただきます。7月19日にも住民説明会があるとのことで、時間がない中でまとめましたので、充分調べられていないこともありますが、ご検討のほど、よろしく願いいたします。

【阿真キャンプ場案は、立地的にも自然環境的にも適地とは思えません】

阿真キャンプ場は、観光立村を謳う座間味村の主力観光地の1つです。静かなビーチと、涼しい木陰のある海岸林、その後ろに広がる開放的な草地の緑が人気の秘密で、豊かな自然を求めて世界中から観光客が集い、長年の常連客も多いです。本来なら観光資源としてその自然と景観を保全すべき場所であり、浄水場建設などインフラ開発は相応しいとは言えません。また、その海側の阿真ビーチからリーフまでの海域は、村内で最も多くのマリン業者が観光客を案内する海域です（資料1参照）。海水浴場があり、その周辺をガイドが引率して、ウミガメやサンゴを見せるスノーケリングエリアがあり、その沖にはダイビングのポイントが点在しています。いずれも、美しい水中景観があつてこそ成り立つアクティビティであり、排水の影響が観光業へのダメージとして、最もダイレクトに現れる海域です。どのような方法であれ、阿真ビーチへの排水と阿真キャンプ場内での建設は避けるべきです。

【住民有志が探した浄水場の最適地・ダム下流域案】

そこで、「自然や景観、島の歴史や伝統に配慮した、よりよい浄水場建設をめざして、新たな候補地を探そう」と住民有志が知恵を出し合つて、浄水場としての最適地を探しました。ダムの水を浄水して各家庭へ届けるわけですから、理想的なのはダムと集落の間、つまり、島においては、座間味ダムから座間味郵便局の間のダム下流域です。そして見つけたのは、村有地とそれに繋がる大きめの土地でした。村有地が二筆（604㎡）、一地権者の土地が三筆（2683㎡）で、合わせて、3287㎡あります。この地権者からは「協力する」と前向きな回答をいただいております。そこに隣接する周辺の土地についても地権者との話しを進めており、今のところ前向きな回答をくださる方が多いです（資料2参照）。浄水場として理想的な場所で、なおかつ観光に影響はなく、また、排水も近くの川の中流から座間味港へと流れ出る間に薄まるので、港より外にあるダイビングポイントには、ほぼ影響はないと考えられます。さらに、この土地の奥には、拝所があつたため、神人の方に確かめたところ、そこは「ナガマシの宮」という水の神様の拝所で、「この場所に浄水場ができるのは理にかなっており、神様も喜ばれ、島の水問題を守ってくださるはずだ」とのことでした。まさに、立地的にも自然環境的にも島伝統の信仰的にも最適な場所ということになります。

住民も協力しますので、なにとぞ、島の宝を守りながら、より良い浄水場を建設していただきますよう、よろしく願い申し上げます。